

平成28年第1回鶴田町総合教育会議会議録

1 期 日 平成28年9月5日(月)

開会 午後2時

閉会 午後3時

2 場 所 鶴田町国際交流会館202会議室

3 案 件 ①「鶴田町立小学校の規模と配置の適正化に関する基本方針」
の学区説明会の結果について

②統合小学校について

③その他

4 出席者氏名

相川正光町長、中野雄臣教育長、竹浪勅佑教育委員、坂本豊教育委員、
竹浪誠也教育委員、宮本充教育委員

5 説明のために出席した者の氏名

中野伸康総務課長、秋庭隆貢教育委員会教育次長、成田和磨総務課まちづくり
班長、渋谷朋樹教育委員会学務総務班長

6 会議内容

(相川正光町長あいさつ)

総合教育会議の開催にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。教育委員の皆様には、残暑の厳しい中、またお忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。そして、日頃より町の教育のために、一生懸命教育委員の皆様方には頑張ってくださっていることに、心から感謝申し上げます。今日の総合教育会議は今年度最初で、昨年4月に法律改正によって設置された会議ですが、地方公共団体の長と教育委員会の連携の強化を図るために総合教育会議が設置されたと認識しています。私どもの町では、以前から教育委員会と町とは連携を強めながら教育行政を進めてきたと私は認識しています。今日は案件が2つありますが、先般説明会を行いました結果についての情報共有、そしてまた統合小学校の建設について、今日の案件にありますので、どうぞ一つよろしく願い申し上げまして、簡単ですけれどもごあいさつに代えさせていただきます。

①「鶴田町立小学校の規模と配置の適正化に関する基本方針」の学区説明会の結果について

(中野伸康総務課長)

案件の1番目について教育委員会から説明します。

(渋谷朋樹教育委員会学務総務班長)

(学区説明会の結果について説明)

(中野伸康総務課長)

ただいまの報告について、何かご意見等おありでしょうか。

(相川正光町長)

この前の説明会は、教育委員会も1校にするという基本方針を説明するための説明会ですが、その後のいつ建てるのか、どこに建てるのか、サンシャインスクールとか、大事なところ意見を出してくれたと思っています。1校に統合することでも前の方針のままでいいのではという意見もありましたけど、年々児童が減っていく、今年は新入生が3人の学校もあった。将来、これから先を考えていけば、1校でいくという理解を得たものと思っています。最後のところで、様々な支援を要する子どもたち、これについては一人一人の子どもの立場に立ち返って支援していく方向というものに、学校が大きくなっても考えて行かなければならない。教育支援委員会というのは、前の就学指導委員会ですね。名称を変えたんですよね。

(中野雄臣教育長)

今、難聴の子が入ったんですが、結局、教室がなかった。空き教室に入ったものですから、親にしてみればそこに押し込められたと、そういう感覚で思ってたみたいです。前もってちゃんと把握して、そういう部屋を作っておけばいい、そういう考えだと思います。それ用に部屋を作り替えた。カーテンを付けたり、絨毯を張り替えたり、ちゃんとやったんですが、親にしてみれば、そう思うのではないか。なかなか、保育園とかから情報が上がってこないときもある。全部が全部聞かせたくないところもあるので、研究していかなければいけない。

(相川正光町長)

そのほかにその学校は支援学級があったのか。

(中野雄臣教育長)

あります。

(相川正光町長)

大きければ教室を用意できるが、小さい学校ではなかなか支援の内容に応じた教室を事前にいくつも用意しておくというのはなかなか難しい。この出された意見を大事にしながら、これから進めていかなければならないと、私は感じていました。

②統合小学校について

(中野伸康総務課長)

よろしければ、案件の2つ目の方に移らせていただきます。統合小学校について、説明します。

(統合小学校建設予定地、建設計画について説明)

皆様のご意見をお願いします。

(竹浪誠也委員)

建設に伴う課題も少なく、早期に着工できるというのは、非常に大事なことであって、大賛成という感じです。全校統合すれば600人を超すんですね、西北でも一番大きい学校になるということに関しては、たとえば、グラウンドの広さがどうなのかということ、少し気になるところはあるけれども、狭いから十分な教育ができないということではないわけです。狭いグラウンドで成果を出してる学校はいっぱいあるし、あとのハード面じゃなくて、教育課程をどう工夫するかということに関わることなので、グラウンド狭いとかどうのこうのとかの一つの論点もあるかもしれないけれど、私はそういうものというのは、いくらでも克服できるし、問題となっていけないんじゃないかという感じはします。そういう意味で、陸上部と野球部がうまく兼ね合いやりながら、工夫次第でいくらでもできると思うし、この小学校の建設の予定地が、現鶴小のところで十分やっていけるんじゃないかなと感じました。

(相川正光町長)

面積は、24,000㎡だ。五所川原中央小学校もだいたい同じくらいの面積。中央小学校も同じ学校の敷地内に新築してます。

(秋庭隆貢教育次長)

鶴田小学校の敷地面積は、24,257㎡です。五所川原中央小学校は、15,676㎡です。水元中央小学校の敷地面積は、19,041㎡で、鶴小は敷地としては、それよりも大きくなっているという状況にあります。

(坂本豊委員)

この学校は避難場所にもなるのか。釧路へ見学に行かせてもらったんですけど、避難場所をきちんと学校の中に場所をとってあるんですね。そういうことも考えてやっていくのか。

(中野伸康総務課長)

学校とは別にですか。

(坂本豊委員)

学校の中に。たとえば一つの学校は、玄関を入るとフロアになっていて、そこにまず避難する人たちが集まる。普段はそこは集会とかそういうことに使われている。全校でない勉強会だとかそういうときに使われている。今ある体育

館、小学校であっても600何人ということになると、体育館2つぐらいないと、いろんな不便がでる。栄小学校にいたが、小体育館もあった。給食も兼ねて作ったみたいだが、普段は体育の授業に使わせてもらっている。ですから体育館も2つあって、部活動でも使えるので、体育館2つあると小学校でも大変助かる。避難の場所にも使える。

（竹浪誠也委員）

体育館と言ったけれども、いわゆる体育館は一つだけれども、校舎の中に広いフリースペースがあって、そこでも、たとえばマット運動ならマット運動ができる。600人ぐらいになって、3クラス4クラスになると、体育の時間を体育館だけでなかなかこなせない状況が出てきて、体育館を半分にしたり、そういうことも少し考慮してもらえればいい。

（中野雄臣教育長）

食堂、ランチルームをうまく使えば、いいのかなと思う。低学年であればそこでも体育できますので。

（中野伸康総務課長）

何にでも使えるようなスペースがあればいいということですね。避難場所については、当然そうなるものと思います。そういうことも基本設計の中で、進めていきます。

（相川正光町長）

学校の中に防災倉庫をかなりの学校で設置している。体育館も校舎の中と外から入れるような入り口を付けたり、当然避難場所になりますので、その辺のところも十分加味しながら進めたい。

（宮本充委員）

障害を持ってる子どもや車いすの子どもが来る。中学校の場合は2階3階に上がらないから、1年生2年生3年生とその学年だけ3年間1階になる。小学校も、3階建てになるか2階建てになるかわからないが、そういう対応をするのか。もしくはエレベーターを付けるのか。それから、避難場所になった場合、この間の岩木川の増水のとくに、豊明館が避難場所になっていて、グループホーム等から来た方々、車いすとかの方々が、1階にいてあふれてしまった。手で上げた場合もあった。その辺も検討してほしい。学校建設と関係ないが、台風が来たときにヤマセが吹いて、鶴小の砂が今まで飛んだことがない砂が飛んだ、黄砂のように2メートルぐらい畑の方に流れてきた。なるべく飛ばないような重い砂があれば、検討してほしい。相当な砂だった。そのときは車が通れなかった。中央小学校が重い砂だ。

（中野伸康総務課長）

建物については、3階建てになると思います。敷地を有効に使うためにも、3

階建てでないと対応できないかと考えています。建設する施設については、これからの検討ということになりますので、考慮していきたいと思います。

（秋庭隆貢教育次長）

重い砂というのは、スライディングすれば、ユニフォームが破れたりする。

（宮本充委員）

特に、乾燥していた。今までは例がなかった。ヤマセも強かったが、台風でもああいうことはなかった。

（相川正光町長）

今までも、強い風が吹けば、土煙が出るようなグラウンドであった。

（秋庭隆貢教育次長）

グラウンドの状況は、かなり良くなった。

（相川正光町長）

全部土だから、芝生のところがないから。

（秋庭隆貢教育次長）

グラウンドの暗渠は、良くなった。雨が降ってもすぐ乾いてる。

（宮本充委員）

野球場の方が常に使っているので、砂が落ち着いてはいないと思う。その砂が飛んだのかな。

（相川正光町長）

エレベーターとか、どういう風になっていくのか。

（竹浪誠也委員）

エレベーターは、やっぱり付けないといけない。車いすの子どもを3階に上げる、給食を3階に上げる、エレベーターは付けないとダメです。

（宮本充委員）

それは、常に子どもたちが使える状況にあるのか。

（竹浪誠也委員）

常に使うことはできない。

（中野雄臣教育長）

障害のある子は使える。

（竹浪誠也委員）

緊急とか、給食とか。

（相川正光町長）

足を怪我して車いすを使う場合もある。6年生で3階にいる生徒が、運動して怪我をしたとか、車いすで行動しなければならないとか、そういうときは当然必要だ。

（竹浪誠也委員）

はじめからエレベーターがついているといい。つけてないと、イスのまま階段を運んでいく機械もお金がかかる。

(秋庭隆貢教育次長)

エレベーターについては、標準なのかな。

(坂本豊委員)

中学校だと納得してくれるだろうけど、障害者で2階3階に行かないで同じ階にだけいるというのは、子どもたちをよっぽど全体を教育しなければ納得できない。不満が残っていく。学年が進むにしたがって、上に行けるんだという希望を持っている。小学校だと。ところが一人の子どもに障害があって上に行けないとなると、プレッシャーになって、不満を持っていく。そういう経験もある。

(竹浪勅佑委員)

かといって、1階建てにするわけにもいかない。

(竹浪誠也委員)

個別支援関係については、相当勉強してやらないと。難聴の設備だって、常設できるものではない。ずっと入らなければ、10年も20年もそのまま使えないわけだから、入ってきたときに作る。だいたい。はじめからやると、肢体不自由など3つも4つも作らなければならない。それは、やめた方がいい。そのときそのときに応じて対応する。

(宮本充委員)

リース等もできるのか。

(竹浪誠也委員)

それは町の財産になる。その子が卒業した時点で、町が保管する。また入ってきたら機械を設置するという形になると思う。

(坂本豊委員)

障害児を抱えている保護者の働きかけがない。入る年度になってから希望を出して、これは権利だと考えている親が多い。前もってうちの子どもはこうなんですと、幼稚園なり保育園の中で働きかけていって、みんなに理解してもらえば、入ったときにすんなり施設が作られる。入る年になってからこうなんだと、なんでできないのかと言われる。うちの子どもはこうだから、一人先生を付ける必要があるんじゃないかと。そういうことできないのか校長、と言う保護者もいる。

(宮本充委員)

発達障害とか保育園とかでわかってればいいが、どうなのか。

(中野雄臣教育長)

わかってるが、出してこない保育園もある。その子がかわいそうだというこ

とで。逆にかわいそうなのだが。

（竹浪誠也委員）

幼稚園とか保育所は、実績を示したい。教育効果を上げているということを言いたいので、そういう事例をあまり出したがらないという傾向がある。私立は特に。うちの幼児教育を受けてこんなによくなってますということは言うが、なかなか成果が上がらなくて大変困ってますという事例は言わない。で、上がってこない。そして小学校が困る。

（秋庭隆貢教育次長）

以前に比べると、出てくるようになった。今は、結構な数が上がってきて、多すぎるぐらいで、支援委員会とかで検査したりとか様々やっている。

（竹浪誠也委員）

鶴田はうまく回っている。五所川原市とかは、なかなか、直前でないと上がってこない。

（秋庭隆貢教育次長）

保育園の先生方が、小学校の入学式とか学習発表会に行って、自分の子どもたちがどうしているか、特に障害のある子を見たりしている保育園もある。以前に比べると連携が深くなってきていると感じる。

（中野伸康総務課長）

様々な障害を持った子どもたちもいることを考慮しながら、基本設計に反映させていく。基本設計ができたらまた意見を伺う。統合小学校を現鶴田小学校の敷地内に建設することを了承していただければ、今日の会議で町と教育委員会との協議が整ったということにしたいが、よろしいか。

（はい、という声あり。）

そうすれば、現在の鶴田小学校の敷地内に統合小学校を建設するということで進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

③その他

（中野伸康総務課長）

次に、その他ですが、何かありますか。

（坂本豊委員）

開校するときに、校長の考えだけでなく、町の目指す学校像をあらかじめ作っておいた方が、最初の校長先生は助かるんじゃないかなと思う。

（相川正光町長）

新しい学校を作るわけですから、すべてがゼロからで、校歌であれ、学校の名称であれ、坂本委員が述べたような学校の目指すものとか、それらについては、今後少しずつ話し合いをしていってもらいたい。

(宮本充委員)

私らの校歌もなくなってしまうわけですからね。

(相川正光町長)

学校名もゼロからみんなで話し合いをして決めていく。そのためにすべての学校は一旦廃校になる。

(秋庭隆貢教育次長)

新設校として、鶴田小学校に吸収ではなく。

(中野雄臣教育長)

新たに委員会を立ち上げて、P T Aの会長などを集めて、各校長が集まって、たたいていかないと出来上がっていかない。

(相川正光町長)

作業としては、ただ校舎を作るだけでなく、それに合わせながら、新しい学校の中身も話していかなければならない。

(竹浪勅佑委員)

よそに負けないような中身のいい学校を作っていきたい。手間がかかるかもしれないが。先生もあそこの学校でやってみたいと思われるような学校を作ってほしい。

(竹浪誠也委員)

子どもたちに郷土愛というか、鶴田の町をとにかく好きになってほしい。そのことがこれから子どもたちが就職していろんなところへ行くと思うが、また帰ってきたいと思えるような鶴田にしたいと思っている。吉永小百合のCMやポスターは、各学校にいつてないですよ。ああいうのを子どもたちに見せたいと思っている。これが全国に誇れる観光地、こんなに素晴らしいのが鶴田にあるということをDVDにでもして、見てない子どもたちもいると思うので、配付できないか。ポスターも貼ってあげれば、東京の人からとてもきれいだと言われるので、鶴田の子どもたちにもそういうことを感じてほしい。子どもたちの鶴田に対する認識も変わって、将来的に影響があると思う。ポスターを学校に貼ってもらって、DVDで先生が気軽に子どもたちに見せられる状況があればいいと思う。

(相川正光町長)

鶴田小学校の敷地内に一日でも早く建設して、子どもたちが新しく立派な施設に入れるように頑張っていけますので、これからも節目節目でご意見をいただきながら進めていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。今日はありがとうございました。

(中野伸康総務課長)

それでは、今日の総合教育会議を終了します。